

元二の安西に使用するを送る（王維）

渭城の朝雨 輕塵を 浥す

客舎 青々 柳色 新たなり

君に 勧む 更に 尽くせ 一杯の 酒を

西の方 陽関を 出ずれば 故人 無からん

渭城朝雨 輕塵 客舎青青柳色新
勸君更盡一杯酒 西出陽關無故人

解説 元二が安西都護府に使いするの送つて渭城まで来て、そこで別れるに当たつて送別の情を述べた詩。

語釈 ※元二＝元は姓、二は排行。排行とは、同姓の一族の中で同じ世代に属するものが、生年順につける番号。

※安西＝安西都護府。※渭城＝咸陽の別名。※浥＝ぬらす。

※輕塵＝輕い塵ほこり。※客舎＝旅館。※青青＝柳の葉の色が
あおいこと。※柳色新＝中国では、別れに際して、柳の枝を手
折つてはなむけにする習わしが古くからある。※陽関＝甘肅省
敦煌県にある関所。※故人＝古くからの友人。

通釈 渭城の町には朝の雨が降つて、輕い塵ほこりをしつとり
ぬらしている。旅館の前の柳は雨に洗われて、青々とした葉の
色を見せている。さあ君、ここでもう一杯酒を飲みたまえ。西
の方、あの陽関を出てしまえば、もう共に酒を酌みかわす友も
いないだろうから